

音樂（一般・器樂合奏）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

観点の内容

音楽科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の知識と新たに習得した知識などが結び付く学習活動が設定されている箇所数 ・ 表現の技能を高めるための記述の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付き、理解するとともに、音楽表現を楽しむために、または表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けさせるように留意する。 ・ 創意工夫の過程の中で、「技能」の習得に関する学習が質的に高まっていること。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数 ・ リズム、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素の働きを感じ取らせる活動が見られる箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるように留意する。 ・ 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、曲や演奏のよさなどを見いだししていくことが質的に高まっていること。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな演奏形態による教材数 ・ 聴き取ったことや感じ取ったことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実にかかわる教材・学習活動が設定されている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が進んで音楽に親しみ、音楽活動を楽しむとともに生涯にわたって音や音楽への興味・関心をもち続け、それをさらに高めていけるように留意する。 ・ 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりする楽しさや、様々な音楽に親しむことができるよう留意する。

調査方法

種目名【 音楽 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識と新たに習得した知識などが結び付く学習活動が設定されている箇所数について調査を行った。 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数について調査を行った。 例) 曲想や活動のイメージ図・イメージ写真や挿絵の箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数について調査を行った。 例) 音楽用語や記号についての説明や資料の箇所 ・リズム、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素の働きを感じ取らせる活動が見られる箇所数について調査を行った。
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数について調査を行った。 例) 声楽・合唱・オーケストラ・和楽器などの教材の箇所 ・聴き取ったことや感じ取ったことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実にかかわる教材・学習活動が設定されている箇所数について調査を行った。 例) 「聴いて感じたことを話し合しましょう」などの記述がある箇所

調査結果

音楽(一般)

		観点A		観点B		観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
発行社	研究調査事項	既習の知識と新たに習得した知識などが結びつく学習活動が設定されている箇所数	表現の技能を高めるための記述の箇所数	楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数	リズム、強弱、形式などの音楽を取りづくる活動が見られる箇所数	いろいろな演奏形態による教材数	聴き取ったことや感じ取ったこと、様々な方法で伝えたり意見交換をしたりするなど、言語活動の充実がされている箇所数
	1年生	○	○				○
	2・3年生上		○			○	○
	2・3年生下	○	○				○
教育芸術社	1年生			○	○	○	
	2・3年生上	○		○	○		
	2・3年生下			○	○	○	

調査結果

音楽(器)

	観点A		観点B		観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行人	既習の知識と新たに習得した知識などが結びつく学習活動が設定されている箇所数	表現の技能を高めるための記述の箇所数	楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数	リズム、強弱、形式などの音楽を取りづらくしている要素の働きを感じさせる活動が見られる箇所数	いろいろな演奏形態による教材数	聴き取ったことや感じ取ったことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実が図られている箇所数
教育出版	○				○	○
教育芸術社		○	○	○		

種目名 音楽（一般・器楽）	発行者名	教育出版
観点	選定のための参考	
<p>A 知識及び技能</p>	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何が同じで何が違う？」のページで、既習の内容を振り返り、関連している内容についても分かりやすく記述されている。 ・主要教材や「比べてみよう」で学習したことについて、さらに知識・技能を深められるような曲が、「深めてみよう」に掲載されている。 ・曲想のイメージにつながりやすい写真やイラストが多く、その曲の歌い方、演奏の仕方、鑑賞の視点といったポイントが分かりやすくまとめられている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとに「学びのねらい」が設定され、基礎からまとめの曲に向けて見直しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・基本的な奏法を学ぶ曲から、修得した知識を生かした発展的な曲まで幅広く掲載されているとともに、ウェブサイト「まなびリンク」で範奏を聴くなどして、さらに詳しく調べることができる。 	
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生と2・3年生(上)には「音楽を形づくっている要素」について説明したページがある。 ・教材ごとに記号や用語が図とともに取り上げられており、巻末の楽典のページに大きくまとめられている。 ・各学年で「学びのユニット」を示し、各曲でどのような要素に注目するか分かりやすく提示されている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器ごとに演奏法や楽譜の見方など、順序立てて説明されている。 ・「音のスケッチ」では、題材を元にした創作や、「音楽を形づくっている要素」を意識しながら学習を深める活動が設定されている。 	
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の後半には、各分野において表現を工夫し、学びを深めるような教材が掲載されている。 ・様々な演奏形態による教材が掲載されている。 ・掲載された曲に使う楽器や奏法などを、共通点や相違点について比較し、考えて交流する活動が設定されている。また、曲を分析し、自分の考えや友達と交流したことを書き込めるページが設定されている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの学習では、リコーダーとクラシックギターや、箏との合奏など他の楽器と組み合わせる演奏する技能を身につけることができるような曲が設定されている。 ・「何が同じで何が違う？」のページでは、楽器ごとの共通点や特徴を理解し、自分なりの考えをまとめ、話し合い活動につなげられるよう工夫されている。 	

種目名 音楽（一般・器楽）	発行者名	教育芸術社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で系統的な学びができるように学習内容が配列されている。また、生涯にわたり音楽文化に親しめるように見通したページがある。 「深めよう！音楽」というページで、既習の曲を例に具体的な手順を示し、図やイラストを用いて視覚的に分かりやすく説明されている。 曲想のイメージにつながりやすいイラストが多く使われている。生徒が話し合いをしているようなイラストとコメントで表現の技能につながる工夫がされている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器ごとに歴史や特有の用語の解説など知識を深める記載が多い。 楽器の基礎的な奏法や、姿勢、構え方などを、写真付きで説明されており、資料や楽譜が大きく視覚的に分かりやすい。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻末に「音楽の約束」として楽典のまとめのページがあり、音符・休符・記号・用語は表として一覧になっており、見やすくまとめられている。 二次元コードを読み取るとウェブサイトで詳しい解説を読むことができる。 各学年に「音楽を形づくっている要素」のページがあり、その要素の働きを感じ取る活動ができる曲名とその曲の掲載ページが紹介されている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器ごとにリズムパターンの例や奏法についての説明が詳しく掲載されている。 「音楽を形づくっている要素」を目次で整理して学習の見通しをもてるように工夫されており、巻頭の「アンサンブルセミナー」で、その曲に合った効果的な楽器を選んだり、演奏の仕方を学んだりする活動が示されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの演奏形態についてポイントとなることや、内容、構成について説明されているページがある。 2・3年生（下）では、音楽史の年表中で多くの曲を紹介しており、日本と西洋の音楽などを比較できるようになっている。 「深めよう！音楽」のコーナーがあり、生徒が曲に対する自分の考えをもち、友達と話し合う設定がされている。活動後に、感じたことを交流し合う設定がされている。 <p>(器楽合奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 短い練習曲からアンサンブル曲など多くの曲が掲載されており、巻末のアンサンブルでは表現を深める発展的な曲が取り上げられている。 「深めよう！音楽」のページでは、演奏したり、鑑賞したりすることで気づいた特徴などをさらに深めるための工夫があり、奏法や表現方法について話し合いながら学習活動を進められる手立てとなっている。 	

美 術

開 隆 堂

光 村 図 書

日本文教出版

観点の内容

美術科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数 ・ 技法等の手順を紹介した箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などから全体のイメージや作風などで捉えることなどについて実感を伴いながら理解できるように留意する。 ・ 一定の手順に沿って材料や用具の使い方などの個別の技能を身に付けるだけでなく、生徒自らが発想や構想したことを基に、自分の意図をよりよく表現するための創造的に表す技能を身に付けられるよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の充実にかかわる教材や学習活動が設定されている箇所数 ・ 鑑賞の活動に関わる題材の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己との対話を深めることや、〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりするなどの言語活動の充実に留意する。 ・ 鑑賞の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保することに留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数 ・ 生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術科の授業の内容を学校内で閉じることなく、生活や社会とつなげて関わりをもたせ、気付かせる工夫をしながら、主体的に生活や社会の中で美術を生かし、想像していく態度が養えるよう留意する。

調査方法

種目名【 美術 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数について調査を行った。 例) 「柔らかい感じが出るように赤い花びらを塗る」、「なめらかな感じが出るように木を削る」など表したい感じを意識したり、制作した作品を基に、形や色彩が感情にもたらす効果を踏まえて表現の意図や工夫について話し合ったりしている箇所 <li style="padding-left: 20px;">一題材の中に、複数の題材がある場合は、それぞれで一題材とする ・技法等の手順を紹介した箇所数について調査を行った。 例) 図や写真等で道具の使い方や技法について紹介している箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実にかかわる教材や学習活動が設定されている箇所数について調査を行った。 例) 作品に対する思いや考えを話し合ったり、批評し合ったりしている箇所 ・鑑賞の活動に関わる題材の数について調査を行った。 例) 作品のよさや美しさを味わい、作者の思いや意図を感じ取る活動等、各発行者が、鑑賞にかかわる内容として扱っている箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数について調査を行った。 例) 学校生活で美術が活かされているような箇所や、工芸作品、日用品、工業製品、建築、標識、伝統芸能について扱っている箇所。 ・生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数について調査を行った。 例) 生徒が制作したり、作品について話し合ったりしている場面の箇所。

調査結果

美術

		観点A		観点B		観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
発行社	研究調査事項	す特徴などからイメージを捉えたりする 要素に着目してそれらの働きを捉えたりする 形や色彩、材料や光などの造形の 技法等の手順を紹介した箇所数	学言語活動の充実にかかわる教材や 鑑賞の活動に関わる題材の数	美術を通じた生活との関わりを 扱った箇所数	生徒が表現や鑑賞の学習をしている 場面の箇所数		
開隆堂	1年生				○	○	○
	2・3年生	○			○		○
光村図書	1年生	○	○	○			
	2・3年生	○		○			○
日本文教出版	1年生		○	○		○	
	2・3年生上・下		○	○		○	

種目名 美術	発行者名	開隆堂
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の参考作品には、簡潔な言葉による説明や作者の言葉が紹介され、随所に「美術の用語」による解説が示されている。 ・領域ごとにまとめられた構成となっており、各題材のページを追うごとに、「造形的な視点による学習」の流れが明確になるように示されている。 ・巻末に「学びの資料」を設け、参考作品とともに用具の扱いや技法の手順、知識や使い方が詳しく示されている。さらに、「作品展示」や「美術館」「美術の歴史と交流」などについても取り上げられている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いながら活動を進めている場面や、自分の思いや考えを伝え合っている場面を多く提示している。また、題材ごとに「学習のポイント」が示され、自然な流れで話し合いが行えるよう工夫されている。 ・鑑賞の題材では、連続した12ページで日本の美術が扱われ、見開きページや「まとめ」でも作品の配置や構成が工夫されている。また、原寸大や部分拡大など図版が大きく、それぞれの写真に番号が記載されている。 ・表現の題材や各扉ページにも多くの作品が配置され、鑑賞活動との関連や学習の流れが示されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・題材毎に他教科との関連が示されていたり、外国の生徒による作品には国名が記載されていたりしている。また、「暮らしに生きる美術」や、デザインや工芸などのページでは、身の周りや、日本の伝統文化に関心をもてるような作品が多く取り上げられている。 ・「学びの資料」では、ひとつの題材に複数の活動の様子を示した写真が掲載され、活動の広がりが促されている。 ・制作中の生徒の様子と共に、話し合いながら発想し、共同して活動する様子が写真で紹介されている。 	

種目名 美術	発行者名	光村図書
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒という設定のキャラクターの会話や、作品に添えられた「作者の言葉」や「作家の発想・構想」のページによって、生徒が「造形的な視点」を理解しやすいように工夫がされている。 ・全ての「表現」題材では、関連した作品鑑賞から始まり、次に「表現 - 発想・構想」、最後に「鑑賞」という実際の授業を意識した流れで構成されている。 ・巻末の「学習を支える資料」や「表現 - みんなの工夫」で写真や解説、作者の言葉も交えながら、実際の制作過程が丁寧に提示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭巻末の詩とともに作品が紹介されているページや、「作者の言葉」や話し合いながら活動する生徒の写真を多く取り上げることで、自然な流れで言語活動を促す構成となっている。 ・「発想を広げる」ページでは、マッピングやベン図など、言葉を使って発想を広げたり、鑑賞したりする話合いの進め方を紹介し、制作途中の作者の言葉と共に描かれたアイデアスケッチの写真が掲載されている。 ・見開きページで作品の比較を示したり、トレーシングペーパーを綴じ込んだり紙質の違うページを工夫したりして、様々な鑑賞授業の形態が提示されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「他教科とのつながり」が大きくコラムとして掲載されていたり、「道徳科とのつながり」として、関連の内容項目が示されたりしている。 ・生徒が活動している様々な様子を写真や絵で紹介し、二次元コードで「全国の中学生の作品を見てみよう」と促す工夫がされている。 ・「表現 - みんなの工夫」のページでは、実際の生徒の写真やその授業での活動の様子が流れを追って具体的に提示され、活動の様子がよくわかる工夫がされている。 	

種目名 美術	発行者名	日本文教出版
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材で、「造形的な視点」や「作者の言葉」、「学びの目標」が見やすく示され、タイトルやサブタイトルも言葉が工夫されていて、「造形的な視点」が理解しやすい構成となっている。 ・各巻末に「学びを支える資料」が設けられ、技法の手順だけでなく、原寸大写真で鑑賞と関連付けたり、作家の実際の制作の様子を提示したりして、創造的な表現につなげる工夫がされている。 ・3分冊で学年を意識した構成となっていることで、同じ素材や題材を繰り返し取り上げながらも、学びの目標を変え、発達段階を意識した学習の設定がされている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が作品を発表している場面や、グループで話し合いながら活動している場面が大きな写真で示され、実際の活動や授業で取り入れられるような例示となっている。 ・「作者の言葉」は、誌面で目に留まりやすい工夫がされ、各題材に設定された「学びの目標」に沿った内容となっている。 ・インデックスやマークで領域や分野がわかりやすく示されていたり、鑑賞と表現の題材を関連付けた学習が提示されていたりする。また、見開きページなどでは、原寸大写真や複数の作品写真で比較ができるような構成となっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・各巻頭の「学びの言葉」や最終巻末の「社会に生きる美術の力」のページでは、美術作家の言葉だけでなく、多方面で活躍する人物からのメッセージが掲載され、社会のなかに生きる美術について考えることができる構成となっている。 ・生徒が作ったものを実際に使っている写真や、「日常の中の美術」「あなたの美をみつけて」「暮らしに息づくパブリックアート」など、生活や社会に美術が生きる様子が随所に紹介されている。 ・A4ワイドの誌面に作品写真と生徒の学習場面の写真が大きく配置され、活動の様子がよくわかる構成となっている。 	

保健体育

東京書籍

大日本図書

大修館書店

学研教育みらい

観点の内容

保健体育科 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動やスポーツとの多様な関わり方(楽しみ方)や「する・みる・支える・知る」について取り扱っている箇所数 ・ 健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数 ・ 心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育や保健の見方・考え方を働かせることを通して、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを実感させ、生涯に渡って心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための知識及び技能を習得させることに留意する。 ・ 「する・みる・支える・知る」といった生涯に渡る豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成に向けて、運動やスポーツの価値や文化的意義等の指導はもとより、指導する領域が有する特性や魅力を理解させること、運動実践につながる態度の形成に関する知識を理解させること、保健で学習する健康・安全の概念と体育の分野で学習する健康・安全の留意点との関連を図ることに留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康・安全に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数 ・ 実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康・安全に関する課題に対応して、自己の健康・安全を保持増進するための的確に思考し、判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力の育成を目指すことに留意する。 ・ 健康に関する課題を解決するなどの学習活動を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、自ら考えたり、判断したりしながら実践的に理解できるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数 ・ 自己の健康・安全に関する取組や自己の健康・安全の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問いの箇所数 ・ 身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した成果を実生活や実社会に生かすこと及び運動やスポーツの習慣化を図ることについて留意する。 ・ 自己の健康の大切さを認識し、健康・安全の保持増進や回復等に主体的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度が身に付くように留意する。 ・ 現在及び将来にわたって健康で活力に満ちた楽しく明るい生活を営む態度が身に付くよう留意する。

調査方法

種目名【 保健体育 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）や「する・みる・支える・知る」について扱っている箇所数について調査を行った。 例）運動やスポーツの価値、文化的意義、領域が有する特性や魅力、運動実践につながる態度の形成、生涯にわたる豊かなスポーツライフ、健康・安全の留意点について記載されている箇所 ・健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数について調査を行った。 例）より効果的に体力を高めること、習慣的に運動やスポーツを行うことの意義や例示の箇所 ・心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数について調査を行った。 例）・科学的な根拠をもとに説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所 <ul style="list-style-type: none"> ・運動と健康の関連について具体的に記載している箇所 ・心肺蘇生法の技能について記載している箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数について調査を行った。 例）「自分の生活を振り返り、〇〇について課題発見しよう。」「〇〇についてどんな方法があるか考えてみましょう。」「〇〇の理由について具体的に説明しましょう。」など、自他の課題を発見したり、学習したことを活用・選択し、判断したり、日常生活体験から自分の考えを説明したりする活動が記載されている箇所 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数について調査を行った。 例）科学的根拠をもとに、説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数について調査を行った。 例）・ルールやマナー、態度、「する・みる・知る・支える」、喜びに関わる写真の箇所 ・自己の健康・安全に関する取組や自己の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問いの箇所数について調査を行った。 例）「病気の予防で学習したことを生かして、次のことについて考えてみましょう。」など問題に設定されているものや、「学習のまとめ」コーナー等で学んだことを活用している事例を紹介している箇所 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数について調査を行った。 例）思春期に起こる体の変化など、吹き出しや専門家の話等で自分の体の変化を肯定的に捉えられるような内容が記載されている箇所

調査結果

保健体育

	観点A			観点B		観点C		
	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等		
研究調査事項 発行社	運動やスポーツの多様な関わり方（楽しみ方）や、支えている・知る・取り扱っている箇所数	健康や体力の状況に応じて取りつめる必要性について取りつめる箇所数	心の健康や疾病の予防に関する内容の箇所数	身近な日常生活の体験や事例を題材にした話し合いや、思考を促す課題を用いて健康・安全に関する課題を解いている箇所数	実践的理解を促すために、実験などを取り上げたり、表などを用いて、グラフ、図、写真、動画、音声、イラスト、アニメーション、VR/ARなどを用いた表現の工夫や、多様な視点からの表現の工夫や、多様な視点からの表現の工夫	運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することのできるような活動や、多様な視点からの表現の工夫や、多様な視点からの表現の工夫	自己の健康・安全に関する保持する増進的な活動や、多様な視点からの表現の工夫や、多様な視点からの表現の工夫	近頃健康や心身の発達を肯定的に捉えている箇所数
東京書籍	○			○			○	
大日本図書	○				○		○	
大修館書店		○	○		○			
学研教育みらい			○			○		○

種目名 保健体育	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツは、「すること」のほかに、「見ること」「支えること」「知ること」という多様な関わり方があることを理解できるよう、口絵や章末資料においてまとめられている。 ・運動やスポーツを続けていけるよう、健康・安全の留意点について具体的事例を取り上げまとめられている。 ・インターネットを使用したトラブルやネット依存について、身近な事例を挙げながら説明することで、自分の身に置き換えて振り返ることができるよう整理されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇とはどういうことでしょうか」や「〇〇について考えてみましょう」など、課題を発見したり、学んだ内容をもとに考えを深めたりすることができるよう工夫されている。また、「活用する」では、習得した知識をもとに、より深く考え、まとめたり、話し合ったりできるよう工夫されている。 ・科学的な分析に基づくデータやグラフがまとまりごとに掲載されており、思考力や判断力を高める工夫がされている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックで活躍した選手を紹介したり、年齢や障がいの有無に関わらず、楽しめるスポーツやスポーツを支える人の写真を掲載したりすることで、スポーツの共生の視点を学べるよう工夫されている。 ・学習のまとめとして、「活用する」「広げる」では、学んだことを生かして、自己の健康の保持増進のための活動や生き方を考え、今後に生かすことができるよう工夫されている。 	

種目名 保健体育	発行者名	大日本図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・種目ごとに高まる体力や、スポーツの技術と学び方が整理されており、自己の体力向上のためのトレーニング方法へ導くなど、理解しやすい順序で構成されている。 ・自転車の特性や安全な利用の方法について、資料などが多く掲載されており、自転車による交通事故、けがを回避するための方法を理解し、実生活の中で実践できるよう配慮されている。 ・章ごとに「学習のまとめ」として、重要な語句とその内容が掲載されているページを明示することで、振り返ることができるよう整理されている。また、他教科と関連する内容には、教科名（単元内容）が記載され、つながりのある学習を進めることができるよう工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「つかもう」では、身近な日常生活の体験を振り返る発問により、自らの課題を解決できるよう工夫されている。また、「やってみよう」や「話し合ってみよう」では、資料を読み取ったり、学んだ内容を活用し、自分の考えを伝え合ったりできるよう工夫されている。 ・ページの右側に資料がまとめて掲載されており、どの生徒にも見やすいよう工夫されている。また、イラストや写真、グラフなどを大きく掲載することで、視覚的に捉えやすいように工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの必要性や多様な楽しみ方を共有することができるよう、動きのある写真を豊富に掲載している。また、世界で活躍するスポーツ選手を支える人々について触れることで、スポーツの共生の視点を学べるよう工夫されている。 ・学習のまとめに「活用して深めよう」が設定されており、学んだことを生かして自己の健康・安全について考え、生活に生かせるよう工夫されている。また、章末の「学びを活かそう」では、実際に起こりうる場面を想定し、書き出したり、話し合ったりすることで学びを深められるよう工夫されている。 	

種目名 保健体育	発行者名	大修館書店
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の体力を「効果的に高める方法」や「バランスよく高める方法」について具体的事例を取り上げ、実生活の中で実践できるよう配慮されている。 ・ 悩みやストレスの原因とその対処法について、「特集資料」や「クローズアップ」の特別ページで詳しく記載することで、得た知識が実践力となるよう工夫されている。 ・ 各章の見出しページには、「この章で何を学ぶのか」を考える発問があり、興味や関心をもって学習を進めることができるよう工夫されている。また、事例内容が、生徒にとって身近な内容であり、学んだことを実践に結び付けやすいよう工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題をつかむ」では、小学校での学習を振り返ったり、グループで話し合ったりしながら、自他の課題を発見し、解決できるよう工夫されている。 ・ イラストや統計グラフ、写真を多く取り入れることで、生徒の理解を促せるよう工夫されている。また、次世代を担うアスリートのコラムや、栄養士など専門家の話を掲載することで、身近に感じられるよう工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料や写真で年齢や障がいの有無、国籍に関係なく、スポーツや運動に挑戦し、楽しみ、支えあう姿を生き生きと伝えており、「共に生きる」というテーマを実感できるよう工夫されている。 ・ 学習のまとめの「生かそう」や章末の「学びに向かって」という課題を設定することにより、学んだことをもとにして自らを振り返り、主体的に取り組むにはどうすればよいかを考えられるよう工夫されている。 	

種目名 保健体育	発行者名	学研教育みらい
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「けがの応急手当」や「けがの再発防止や予防」に活用できるテーピングの巻き方が、図を用いて分かりやすく掲載されている。また、インフルエンザによる発熱から登校可能日までの期間を例示し、実生活の中で実践できるよう配慮されている。 ・心の健康に関連した資料を口絵や章末などで紹介することで、得た知識が実践力となるよう工夫されている。 ・各章のまとめには、「学んだキーワード」が掲載ページとともに明示されており、理解を深めることができるよう整理されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題をつかむ」では、身近な日常生活の体験を振り返ったり、グループによる話し合い活動で自らの考えを伝えあったりする中で、思考力を高めるよう工夫されている。 ・学んだことを整理したり、深めたりできるよう、科学的根拠や統計にもとづいた資料を使っている。特に、学習内容に関連した読み物資料をコラムとして記載することにより、生徒が課題を身近に感じることができるよう工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・口絵や各章ごとにスポーツの多様な楽しみ方や、健康・安全に関する写真が掲載されており、共生の視点を学べるよう工夫されている。また、「ひと」や「カウンセリングルーム」のコーナーでは、専門家の話などを掲載することにより、心身の発育・発達を肯定的に捉え、自らの生き方が考えられるよう工夫されている。 ・「まとめる・深める」では、学んだことを生かし自己の健康・安全について、どのように取り組んでいくかを書き出したり、話し合ったりすることで、これからの生き方について考えることができるよう工夫されている。 	

技術・家庭（技術分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

観点の内容

技術・家庭科（技術分野） 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みについて取り上げている箇所数 ・ 安全・適切な製作や飼育、検査・点検等ができる技能について取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで開発され生活や社会で利用されてきた技術について、その仕組みと関係する科学的な原理・法則を理解するとともに、それらに係る技能の習得を図ることが必要であることに留意する。 ・ 製作、制作、育成、調理等の実習の指導において、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱うため、安全の保持に十分留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数 ・ 課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術分野として解決を目指す問題の範囲が、身近な生活といったものだけでなく産業等も含めた社会にあることに留意する。 ・ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想し、製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善することのできる力を育むことができるよう留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数 ・ 環境や経済、社会と技術との関わりや持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術分野として育成を目指す学びに向かう力、人間性等が、安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度であることに留意する。 ・ 社会からの技術に対する要求と、開発・利用時の安全性、自然環境に関する負荷、開発・利用に必要な経済的負担等の相反する要求の折り合いを付け、最適な解決策を考えることが技術分野ならではの学びとなることに留意する。

調査方法

種目名【 技術・家庭（技術分野） 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かる表や図、写真の箇所数について調査を行った。 例) 木質材料の拡大写真、魚の生産量に養殖の占める割合のグラフ、蛍光灯中の電子の動きの図などの箇所 ・製作や飼育、検査や点検などの技能に関する基礎的な内容を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 作業手順の流れ・用具の扱い方、安全に関する注意事項などの箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 「考えよう」「問題点を見つけよう」といった問題点を考えさせるための表記や項目などの箇所 ・課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 問題解決学習の具体的な学習の流れや実践例などの箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 評価レポート例、改良案を考えさせる質問や自宅での活用例の紹介などの箇所 ・環境や経済、社会と技術との関わりや持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 木材の循環に関する資料、水産生物の生育環境の図、大規模建造物の構造に注目した写真や図、発電方法と環境への影響をまとめた比較図などの箇所

調査結果

技術

	観点A		観点B		観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行社	所組のギ材 数々の科学的変換加工、情報育、技術に基礎的である	安全・適切な製作や飼育、検査・ 上げて点検等ができる技能について取り 上げている箇所数	生活や社会の中にある技術に関わ る問題について取り上げている箇 所数	課題を設定し解決する一連の学 習過程について取り上げている箇 所数	問題解決とその過程を振り返り、 改善、修正や生活への活用の仕 方について取り上げている箇所 数	環境や経済、社会と技術との関 わりや持続可能な社会の構築に 関する取り組みや技術への関 わりについて取り上げている箇 所数
東京書籍			○	○		○
教育図書	○	○			○	
開隆堂	○		○	○		

種目名 技術・家庭（技術分野）	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「リンク」、「他教科」、「小学校」、「Dマーク」などの表示により、技術・家庭科の関連項目だけでなく、他教科および小学校の内容との関わりが一目でわかりやすく、幅広い視点から基礎的な知識を学ぶことができるように工夫されている。 ・工具の基礎的な使用方法や作業手順を「TECH Lab」のページとしてまとめ、手順に沿いながら各作業別に説明されているため、振り返りの学びがしやすいように工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎節、はじめの活動として「考えてみよう」や「調べてみよう」などの考えるきっかけが与えられている。さらに、まとめの活動として「生活に生かそう」や「まとめよう」が設定されており、深い思考を促すための工夫がされている。また、いろいろな場面でキャラクターが発言する形式で、技術の見方・考え方につながる情報が提示されている。 ・実習の場面では、生活の中にある問題の発見から始まり、その問題を解決するための計画や作業、評価までの具体的な流れを「私が開発者！問題解決カード」に沿って学習できるようになっている。また、問題解決例として実習の実践例が数多く紹介されており、製作の手順や工夫をするための視点など、さらなる問題解決につながる情報が丁寧に掲載されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「Next 評価、改善・修正」の中で、生活への有効な活用のための工夫や改良の仕方の例を取り上げることで、新たな課題設定がしやすいような構成になっている。また各内容のまとめに「未来のTechnology」と題して、技術を適切に評価し、未来に向けての改良、応用について考えさせる内容が盛り込まれている。 ・生活や社会の中で活用されている身近な技術から、最新の技術までを、導入部分で写真を多く使って紹介しているほか、環境や防災、情報モラルに配慮が必要な箇所を強調し、意識を高める工夫がされている。また「技術の匠」のページを各編の後半部分に配置し、技術に携わり、社会で活躍する人々から学ぶためのコラムが掲載されている。 	

種目名 技術・家庭（技術分野）	発行者名	教育図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各編の1章を「つくって・育てて学ぼう」として、簡単な製作や育成を通じて基礎的な知識および技能が習得できるように工夫されている。特に基礎的な仕組や性質などは、「やってみよう」を窓口に、順に理解が深まるように配慮されている。また、「情報の技術」では、2種類のプログラミング言語について、基本的な使い方をそれぞれ見開き2ページを使って見やすく示し、苦手な生徒にも基礎的な内容が定着しやすくなっている。 ・多くの製作例があり、共通の作業の流れを示す中で、異なる工程に焦点をあてて詳しく紹介し、様々な技能の習得につなげている。また、大きな写真を提示し、「基礎技能」「ポイント」を強調して示すことで、基礎的な技能を確認しながら作業ができるように工夫されている。さらに別冊「技術ハンドブック」に作業に関する内容がまとめられており、基礎的な技能がさらに定着するよう配慮されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの導入として「見つける」が設定されており、生活や社会の中にある技術に関わる問題点の気づきにつなげている。 ・各編の2章「じっくり学ぼう」では、最初に問題解決例の流れをステップ1から4に分けて紹介し、見通しをもって学習が始められるように工夫されている。また、巻末に問題解決学習の計画表が付属しており、実際の学習場面に使用できるようになっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめりごとに「ふり返る」の項目が設定され、細かな段階ごとに、2～3項目ずつの確認事項を用いて自己評価を行うように構成されている。また、問題解決学習のまとめには、「私のひと工夫」、「先輩からのアドバイス」など、さらに改善・修正を重ねてよりよいものを作り出そうという意欲を引き出すための工夫がされている。 ・「もっと知ろう」では、最先端の技術、「技ビト」では社会で活躍する技術者の声が紹介されており、環境や社会と技術との関わりについて、数多くの事例を取り上げている。 	

種目名 技術・家庭（技術分野）	発行者名	開隆堂
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードをページの右下に数多く配置し、実験や作業の内容を動画を用いて提示することで、基礎的な知識や技能が身につけやすいように工夫されている。また、生活や社会で使われる技術の工夫を調べることで、技術の内容に関心を抱かせて、自ら学ぶ意識をもたせる工夫がされており、基礎的な知識や技能がより定着するように配慮されている。 ・工具や道具の使用方法や作業の注意点、情報処理の基本と表現など、基礎的な知識や技能について、写真やイラストを上手く使ってポイントや注目点が丁寧に示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「実験」の方法や内容の紹介が数多く設けられており、実験を通して考えたり、判断したりすることができるように工夫されている。また、実際の実験の様子を二次元コードの動画で確認することができ、その様子や結果を手掛かりに、それぞれが自らの考えを深めていくように構成されている。 ・実習例ごとに問題の発見から評価、改善までの具体的な学習の流れと、問題解決に必要な情報が整理されて示されており、その流れに従って学習を進めることで、問題解決学習を確実に進めることができるように構成されている。また、情報の技術の実習例には、制作工程表やアクティビティ図が取り入れられ、問題解決までの流れを視覚的に分かりやすく整理するなど、取り組みやすいような工夫がされている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習例の終わりに、評価、改善についての記述が明確に示されており、あわせて改善策を考えるための視点を示し、最も適した技術の仕組みを考える姿勢を育むことを意識した構成になっている。 ・「参考」の資料に一步進んだ技術の工夫、創造についてまとめている。「探求」のコーナーでは、環境や防災の視点から、新たな技術を中心とした内容を扱っている。また、各内容の終わりには「学びを深めよう」として、それぞれの内容に関するコラムが掲載されており、学習したことを基に、課題やその解決方法について、自分の考えをまとめる場面が設定されている。 	